

2018
アミューズメント産業新春賀詞交歓会

日本アミューズメント産業協会（JAIA）、一般社団法人全日本アミューズメント施設業者協会連合会（AOU）、一般社団法人日本アミューズメントマシン協会（JAMMA）の業界3団体主催による『2018アミューズメント産業新春賀詞交歓会』が1月12日（金）17時30分、東京・文京区の東京ドームホテル「天空の間」において開催された。

JAIA JAMMA AOU
2018アミューズメント産業新春賀詞交歓会

近間足葵 「JAIA」
330名が新春を祝う



まず、主催者を代表してJAIA・JAMMAの里見治会長が挨拶。例年より参加者が多い印象の会場の熱気に感嘆の声をもらすとともに「昨年はオペレーション売上が昨対で100%を超えるところが多く、過去10年以上続いていたマイナスから一転してここ2年くらいは昨対でプラスとなっている。その要因として、おもしろい機械が出てきたこと、特に景品、クレインゲームの売上が良いことがあげられるが、やはり一番大きいのは風適法改正により保護者同伴時の年少者立入時間が緩和されたこと。それが認知され売上アップにつながり、本日、これだけのみなさんに参加していただけたのでは」と、AM業界全体について明るい兆しが見えてきたとの見解を示した。

里見会長はさらに「JAMMA、AOUと名前がついた賀詞交歓会は今回が最後。同じ業界で1つになろうよと10年以上話し合ってきた中で、いよいよ今年4月1日、念願の新団体がスタートすることになった」と新生JAIA発足に対する喜びを表明。「業界が一体化するなかで、まだ我々が抱えている規制緩和（例えば、景品上限価格の引き上げや日本市場にあったリデンプションゲームの認可）への取り組みを進め、また、ナイトタイムエコノミー（インバウンドの増加にも関連し夜間の消費を増やそうという動き）の下、シニアも遊べる場所を創れないものかと考えている。最大の努力をして実現していきたい」と意気込みを語り、関係各位、参加者への支援をお願いして挨拶を締めくくった。

続いて、衆議院議員3氏からの来賓挨拶。平沢勝栄衆議院議員は「現在の景品上限価格800円は、私が警察庁の課長時代に引き上げたもの。それは30年も前であって、以来まったく上がっていないことになる。規制緩和も含めAM業界の色々なお願いをあげてもらえれば、警察庁にしっかりと申し上げさせていただく。ようやく営業時間の制限が



撤廃されたダンスに關しても、外国に行けば一晩中OKなのだから日本は外国から見たら文化後進国だと笑われるという発想があった。これからも、みなさんの業界のために一生懸命働かせていただく」とコメント。議員連盟「時代に適した風営法を求めると」事務局長である秋元司衆議院議員に挨拶のバトンを渡した。

その秋元司衆議院議員は「多くの外国人観光客にとって日本の夜はつまらない。おもしろい観光をとナイトタイムエコノミーの推奨に力を入れている。私は1971年生まれ。子どもの頃はゲーセン立入禁止だったが、今やAMは家族で楽しめる大きな産業として発展してきたわけで、そうした時代の変化とともにある風適法の在り方を模索していかなければならないし、加えて、外国人にも楽しんでもらえる環境を作っていかなければならないと思っている」と語り、その他、パリでオリンピック競技になると言われながら、日本ではまったく盛り上がり上がっていないeスポーツに關しても言及した。

また、鈴木隼人衆議院議員は、「人口減少という難しい時代ではあるものの、フランスの経済学者ジャック・アタリは、これからの時代に大きく育つ産業としてレジャーやAM産業、保険産業をあげている。皆様の将来は明るい。業界の発展に向けて知恵を出し合っていたらいい。微力ながらお手伝いをさせていただきます」とエールを送った。